

アメリカに生きたサムライ・長沢鼎 一鹿児島国際大学資料

森 孝 晴

1. 薩摩藩英国留學生長沢鼎

長沢鼎（本名磯長彦輔）は、1852（嘉永5）年に鹿児島城下に生まれ、生麦事件、薩英戦争と揺れ動く藩内情勢の中で、在学していた開成所洋学校の学生の中から選抜されて日本でも極めて早い時期の留學生、薩摩藩英国留學生の最年少留學生に選ばれた。藩命を受けた一行19名（正確には留學生はこのうち15名）は、1865（慶応元）年4月にいちき串木野市の羽島港を出発した。国禁を犯しての必死の旅であったが、しかも長沢は13歳であった。

同年6月にイギリスのサウサンプトンに入港、直後にロンドンに到着した。長沢はほかの留學生とともにロンドン大学に入学することは叶わず、一人トマス・グラバーの故郷であるスコットランドのアバディーンに送られ、グラバー邸に寄宿して地元の中学校に2年通った。しかし彼はこの時期に猛勉強をし、立派な成績を残している。

思えば長沢の人生は紆余曲折、運命に翻弄され苦勞の連続であった。本國で戊辰戦争が始まるとまたも振り回され、ついには5人の仲間とともに当時の新興國アメリカに渡る事となる。1867（慶応3）年の夏のことで、長沢は15歳であった。6人はまずニューヨーク州のアミアンに入るがほどなくして同州プロクトンに移る。長沢は結局ここで7年強を過ごすことになるのだが、その間にまたもや状況は変転する。

1868（明治元）年の明治維新の年に、長沢（16歳）以外の學生がついに姿を消すこととなり、1871（明治4）年、19歳の時に長沢は森有礼に対してアメリカ永住を宣言したのである。彼はこの宣言を守り通すことになるわけで、まさに「武士に二言はない」を地で行ったのだ。その後人生の師トマス・レイク・ハリスの計画により、1875（明治8）年に彼に同行してカリフォルニア州サンタローザに移住する。23歳のときであった。長沢にとってこの地が終の棲家となるわけで、ここで実に60年近くを過ごすのである。

長沢はサンタローザでブドウ畑とワイン工場の担当を任せられ、同地のファウンテングローブ

の丘で全力を尽くし、30歳の時にはブドウ酒醸造所を完成する。このあたりの苦勞も並ではなかったが、1892（明治25）年にハリスがニューヨークに移動すると、40歳にして土地と醸造所の管理を任せられ、48歳で全経営権を握り、1911（明治44）年にはハリスの死去に伴い事実上全ファウンテングローブを所有するに至った。59歳のときであった。その後も、禁酒法や排日法制で苦勞が続いたが、現地では地元民の尊敬を集め、「バロン・ナガサワ」「ブドウ王」などと呼ばれるほど有名になり、アメリカ全土の名士とも交流した。

82年の変転する人生を武士道精神で生き抜いた長沢は、1934（昭和9）年にサンタローザで死去した。

2. 長沢資料が鹿児島国際大学に所蔵されることになった経緯

この経緯を説明するためには1983年にまで遡らなければならないし、鹿児島県立短期大学の名誉教授であった故門田明先生に触れなければならない。特に門田先生の温かいご遺志には深く感謝しなければならない。

長沢鼎の名は、1983（昭和58）年以前はほとんど知られていなかった。日本では、同年11月に当時のレーガン大統領が来日時に国会演説で、日米交流の祖として長沢の名を挙げ彼をたたえたが、おそらく国会議員の誰一人として長沢とは誰のことかわからなかったろう。しかし実はそれより半年以上早く、同年4月に長沢の縁を絆とする「鹿児島友好協会」が彼の愛したカリフォルニア州サンタローザ市に誕生していたのだ。

これに呼応した鹿児島側では、レーガン大統領の演説と同時期の、つまり同年の11月に門田先生と古木圭介氏が中心になってにわか作りの鹿児島サンタローザ友好協会が作られた。初代会長は新納教義黎明館館長（当時）が就任し、直後に筆者も会員となり、ほぼ同時に役員になった。翌年には、サンタローザに長沢が建てた円形の厩「ラウンド・バーン」の現地保存が決定して弾みが付き、その後は一年ごとに新しいことが行なわれていった。

1985（昭和60）年には中村晋也氏作の長沢胸像がサンタローザ市に寄贈され、1986（昭和61）年には、山形屋デパートが、友好協会の仲介で長沢ワインの輸入・販売を開始し、その翌年には両友好協会の最も重視する事業であるSRKSEP（Santa Rosa Kagoshima Student Exchange Program）、つまりサンタローザと鹿児島の学生交換プログラムが始まった。この年はサンタローザ側から10名の学生と2名の引率者が来鹿し、筆者は鹿児島側最初のホストファミリーの一人となったが、翌1988（昭和63）年には今度は筆者が鹿児島側からの初の引率者となって15名の学生がサンタローザを訪問した。これ以来SRKSEPは一年交代で学生を送り合っているのである。28年目の本年（2015年）も10人の学生が一人の引率者と来日し、これでこのプログラムで海を渡った若者の数は308人となった。完全な民間組織としてはよくここまで続いたと言えるだろう。

その後は、新納会長の退任に伴って、1999（平成11）年に、門田会長、古木副会長、森副会長、七枝敏洋事務局長という新体制が生まれ、2000（平成12）年には鹿児島国際大学に学生支部が生まれ、同年に鹿児島国際大学のサンタローザ研修「外国文化実習」が開始された。この研修も現在まで続いており、現在（2015年）までの15年間に39人の本学学生がサンタローザ体験をしている。

2007（平成19）年、SRKSEPが20年目を迎えたこの年の7月に、サンタローザ市はかつて長沢の所有していた土地の中に「ナガサワ・コミュニティ・パーク」を造り開園した。こうしたことは珍しいことで、日本人の名前を冠した公園を筆者はほかに知らない。そして鹿児島では同年の9月に門田会長が退任し、森会長、古木副会長、七枝事務局長の運営体制に切り替わり、2013（平成25）年にはついに協会設立30年を迎えたのである。

ところで、門田明先生は、1983（昭和58）年にテリー・ジョーンズと共著で『カリフォルニアの士魂 薩摩藩留學生長沢鼎小伝』を出して以来、2009（平成21）年に亡くなるまで薩摩藩英国留學生と長沢の権威として知られた。1991（平成3）年には『若き薩摩の群像 サツマ・スチューデントの生涯』という書も出している。

その後も活躍されていた門田先生が退任後病に倒れ、われわれの祈りにも関わらず2009（平成21）年9月に帰らぬ人となった。協会は衝撃の中で協会の発展を誓った。御遺族は先生の収集した資料をどこか信頼できる研究機関に預けたいとのご意向であった。実は私は生前会長退任後の門田先生から、この資料の万が一の場合の扱いについて相談を受け、貴重な資料の鹿児島国際大学での所蔵について打診を受けていた。私は非公式ながらお引き受けする意思を表したものの、まだまだずっと先の話として公式には大学に確認せず保留していた。

しかし、残念なことに思いのほか早くこの件を検討する必要が生じてしまったのである。御遺族と話し合い、門田先生のご遺志も確認した上で、先生の資料を国際大学でお引き受けすることになった。筆者はすぐに当時の瀬地山敏学長にこのことを報告し、大学で保管することについて許可を求めたところ、学長は貴重な資料をご寄贈いただけるなら有り難いことだと承認してくれたのである。

そこで、筆者と本学の非常勤講師で鹿児島サンタローザ友好協会事務局長でもある七枝敏洋氏との二人三脚の作業が始まるのであった。まずわれわれは、ご遺族の許可を得て門田先生の書斎に入り、長沢資料を中心とする薩摩藩英国留學生関連の書籍・資料ファイルを持ちだす仕事にとりかかった。1回ではとても終わらず、繰り返しお邪魔して最終的には10箱以上に上る段ボールを選び出し、本学の空き部屋になっていた研究室に運び込んだ。

2010年の4月からはいよいよこれらの資料の整理と目録作りにとりかかったが、これが意外に難航し、2011年の4月まで丸1年かかることとなる。まず、資料の数の多さである。最終的には400点を越えたわけで、門田先生は一つ一つファイル化しておられてさすがと思いはしたも

の、そのファイルが破損して崩れていたり、タイトルなどの文字が読めなくなっていたりとそのままでは新しいファイルに移行できないものも多かった。

さらに時間を使うことになった理由がある。それはまず、門田先生のことを懐かしく思い出してつい思い出に浸ってしまうからだ。さらに、興味深い資料が山積みなので、つついしばし手を止めて資料に見入ってしまうからである。整理しているだけでとても勉強になった。そんなこんなで1年かかってやっとすべての資料の整理とファイルへの収納、そしてリストアップが終了したわけである。その総数はなんと442点に上り、長沢鼎の89点のほかに、ほかの留学生たちや薩英戦争、マセソン商会や上野景範関係史料などがずらりと並んでいた。

鹿児島国際大学では、これらの資料を書庫に所蔵する前に、その一端、つまり長沢資料のうちで珍しいものを「長沢鼎展」として本学5号館1階の大学附属の博物館の展示室で一般公開することになった。長沢単独では日本初の展示ではないかと思われるが、本学の鐘ヶ江博物館学芸員などの方々の協力を得て、2011年の9月28日から12月26日まで3カ月にわたって開催され、100人を超える人々が長沢の展示を見に訪れた。中には、長沢やほかの薩摩藩英国留学生の子孫も含まれていた。けっして大規模なものではなかったが、本格的な展示会となった。

初日の9月28日には長沢展の開催を記念して「長沢の人生から国際性の意味を考える」と題したシンポジウムが本学視聴覚ホールで行なわれた。瀬地山学長と筆者が講演し、山形屋の協力のもと「ナガサワイン」の試飲会も行なわれ、門田夫人も出席されて、学長より感謝の言葉が贈られた。

こうして、門田先生の貴重な資料は、先生の書齋を飛び出し、鹿児島国際大学に所蔵され大切に保管されている。現在は、資料のさらなる公開法や活用法が検討されているが、今後さらに、学生・教員や多くの市民・研究者の学習や研究に役立っていくことが望まれる。すでに本学学生が卒論の資料として調べたり、しばしば出版、テレビ番組、新聞などからの問い合わせがあり、筆者を中心にしてこれに対応しているところだ。我々は何より学生や若い人たちが関心を持ってくれることを期待しているところで、これこそ門田先生が心から望んだことである。

今回は、門田先生が寄贈されたこれら本学所蔵の薩摩藩英国留学生研究資料のうち、長沢鼎の資料のリストをここに紹介する。

本学の長沢資料の特徴は、まず第1に研究資料が多いということである。第一次資料はあまり多くないものの、長沢研究のためには必要十分な質と数がそろっている。卒業論文はもちろん修士論文にも対応できるレベルのものである。第2には、スライドを含めた写真資料が豊富だということである。総数で数百点にのぼり、ネガのあるものも多い。中には、長沢本人の未だ公開されたことのない、あるいはほとんど見られたことのない珍しい写真も多数ある。3点目としては、これは第一次資料で、リスト上は書籍に分類されているので下記のリストには

載っていないが、長沢の初の伝記である鷲津尺魔の私家版『長沢鼎翁伝』がある。これは鷲津が書いたものを川勝正之が長沢の家族のためにと手書きしたもので、おそらく世界にこの1点しかないのではないかと推測される。

書籍ではほかにも、すでに触れた門田先生の著書がそろっている。また、コピー等でいうなら、長沢の戸籍や叙勲資料、おそらくアメリカで初めて出された長沢の伝記パンフレット（英文）、長沢関係の系図、親族のインタビューテープ、長沢のワイナリーのパンフやラベル、長沢のアバディーン時代の優秀な成績を示す新聞記事、レーガン大統領の長沢関連の国会演説の全文（英字新聞）、など興味深いものが並んでいる。

以下がそのリストである。

| 表題など | 保存形式 | 出所等 | 年代など | 備考 |
|--|----------|--------------------|---------|---------------------------|
| “The Grape King” (英文) | コピー | | 1984 | THE EAST |
| 「サンタローザの大酒造家」(「学生」) | コピー | | 1911 | 富山房 |
| 「トマス・レイク・ハリスと母なる神」(土屋博政著) | 紀要抜刷 | | 1993 | 慶応大学 |
| 「長沢鼎の加州移住」(「在米日本人史」より) | コピー | | | 在米日本人会 |
| 「米国ブドウ王・長沢」(「郷土人系(中)」) | コピー | | 1969 | 南日本新聞社 |
| 「マーガレット・オリファント回顧録」 | コピー | | | |
| 「森有礼とトマス・レーク・ハリス」2点(「覚書」と「完」,「日米フォーラム」より) | コピー | 林竹二 | 1963 | 「日米フォーラム」 |
| 「森有礼伝」より(ハリス, アミアニア, プロクトン) | コピー | | | |
| 1855年アバディーン地図(「カリフォルニアの士魂」p.65) | コピー | | | |
| 1867年アバディーン地図(「カリフォルニアの士魂」p.65) | コピー | | | |
| 1989年4月の長沢展示会の新聞記事3枚 | コピー | | | |
| 19C アバディーン風景(絵) + アバディーン資料1点 | コピー | | | |
| Biography of Kanae Nagasawa by Masayuki Kawakatsu (日本語で書かれたものの英訳) | コピー | Masayuki Kawakatsu | | |
| Gymnasium, Old Aberdeen Report & Prospects (英文) | コピー | | 1853? | |
| The “Gym” or Sketches from School. およびList of Scholars(共に英文) | コピー | | 1885 | |
| The Japanese “Baron” of Fountaingrove A study of Kanae Nagasawa (英文) | コピー | Gaye LeBaron | | Santa Rosa Junior College |
| UCL 薩摩留学生記念碑パンフレット2種 | コピー | | | |
| アバディーン古写真ネガ1つづり | ネガ | | | |
| アバディーン写真集 | 紙ファイル | | | |
| アバディーン地図 | コピー | | | 大ファイル |
| アミアニア関連資料3点(新聞記事, 絵葉書, 地図) | 現物, コピー | | | |
| 荒田・中洲校区(三方限)史郷土資料(写真4点+ネガ) | 写真, ネガ | | | |
| 伊地知共喜戸籍 | コピー | | | |
| 伊地知ヒロ面談オーディオテープ(その1) | オーディオテープ | | 1979年4月 | |

| 表題など | 保存形式 | 出所等 | 年代など | 備考 |
|--|----------|------|---------|-------------|
| 伊地知ヒロ面談オーディオテープ〈その2〉 | オーディオテープ | | 1979年4月 | |
| 浮田和民・渡辺金三「日米非戦論」(長沢関連部分) | コピー | | | |
| 梅田?戸籍 | コピー | | | |
| 沖縄県人サンフランシスコ移住百周年記念誌(含む長沢・ブドウ園写真) | コピー | | | |
| オリファント資料(「日本英学史上のロレンス・オリファント」(門田明手書き原稿)) | 手書き原稿 | 門田明 | 1983 | |
| オリファント資料2点(「オリファントと刀」「村井保固と妻キャロライン」) | コピー | | | |
| オリファント資料5点(略年譜、長沢年譜、英文資料、「薩藩海軍史」部分、「寺島宗則自伝」) | コピー | | | 日本英学史学会九州支部 |
| 海外に雄飛した薩摩の青年たち(門田明、講演要旨) | 現物 | 門田明 | 2000 | 県高校歴史分科会大会 |
| 左近充淳次戸籍 | コピー | | | |
| 佐々木茂平戸籍 | コピー | | | |
| 薩摩藩算士磯長孫四郎(長沢の父)について | コピー | | | |
| 薩摩留学生東市来街道資料3種(「参勤交代と御仮屋」「御仮屋跡」「石谷校区史蹟資料」) | コピー | | | |
| 叙勲資料2点 | コピー | | | |
| 図師久吉戸籍 | コピー | | | |
| 長沢鼎 in San Jose(北米毎日) | 現物 | | | |
| 長沢鼎関係系譜(印刷) | | | | |
| 長沢鼎関係系譜(手書き) | | | | 大ファイル |
| 長沢鼎関係戸籍資料綴り(長沢鼎戸籍を含む) | コピー | | | |
| 長沢鼎関係写真集(46枚、他の写真も含む) | 写真 | | | 独立ファイル |
| 長沢鼎写真集ディスク | CD ディスク | | | |
| 長沢鼎とキリスト教(門田先生英学史学会手書き発表原稿) | 現物 | | | |
| 長沢関係言及(「歩みの跡—北米大陸日本人開拓物語—」より(藤岡業朗著)) | コピー | 藤岡業朗 | 1957 | 羅府図書館刊行後援会 |
| 長沢関係写真4枚 | 写真 | | | |

| 表題など | 保存形式 | 出所等 | 年代など | 備考 |
|---|------------------|-------------------|----------------|----------|
| 長沢関係新聞資料, 計3点 | コピー, 現物 | | | |
| 長沢関係新聞資料, 計6点 | コピー, 現物 | | | |
| 長沢関係スライド (6つづり計86枚 = 19+7+15+16+9+20) | スライド | | | 独立ファイル |
| 長沢関連写真集4冊組 (42, 46, 22, 43枚ずつ計153枚) | 写真 | | | 独立ファイル |
| 長沢関連資料「開成所に関する新資料」 | コピー | 大久保利謙 | | 【政治経済史学】 |
| 長沢関連資料「郷土人系」 | コピー | 南日本新聞社 | | |
| 長沢関連資料「鹿児島百年」(上, 幕末編) | コピー | | | |
| 長沢関連歴史資料(「伯爵珍田捨己(サンフランシスコ領事)伝」の一部) | コピー | | | 共盟閣 |
| 長沢公園について, 計2点 | コピー, 現物 | | | |
| 長沢写真1枚, ラウンドバーン写真1枚, ネガ2本 (9枚分) | 写真, ネガ | | | |
| 長沢写真21枚, およびネガ一袋 | 写真, ネガ | | | |
| 長沢写真スライド (4パック [20, 20, 12, 18枚ずつ, 計70枚]) | スライドファイル | | | 独立ファイル |
| 長沢叙勲資料 | コピー | | | |
| 長沢資料4点 | コピー | | | |
| 長沢新聞記事 (長沢の成績優秀者発表) | コピー | | 1866 | 大ファイル |
| 長沢新聞記事1点つづり (英文, テリー・ジョーンズ著) | コピー | テリー・ジョーンズ | | 大ファイル |
| 長沢についてのインタビュー (梅田氏, 佐々木氏) | オーディオテープ | | 1979年6月 | |
| 長沢についての懐旧談 (山路澄子) + 山路澄子所蔵写真8枚 | オーディオテープ + 写真 | | 1979年1月 27日 | |
| 長沢日記 (タイプ原稿の写真) | 写真 | | | |
| 長沢年表2種 | コピー | | | |
| 長沢評伝 (「アメリカの日本人」(英文)より) | コピー | マンチェスター・ボッ ディー | 1821 | |
| 長沢文献3種 (カワカツ「長沢伝」英訳, 同ビブリオ, テリー・ジョ ーンズ文献表) | コピー | | | |
| 長沢ワイナリー生産量一覧表 | コピー | | | |
| 長沢ワイナリーパンフ, ラベル等計10枚 | コピー | | | |

| 表題など | 保存形式 | 出所等 | 年代など | 備考 |
|-----------------------------|--------|------|------|--------|
| ネガ集① | ネガ | | | 独立ファイル |
| ネガ集② | ネガ | | | 独立ファイル |
| ネガ集③ | ネガ | | | 独立ファイル |
| ネガ集④ | ネガ | | | |
| 羽島, サウサンプトン, ベッドフォード写真集 | 紙ファイル | | | |
| 平原篤之助戸籍 | コピー | | | |
| ファウンテングローブ・ワイナリー資料 | ブックレット | | | |
| プロクトン, アミニア関係地図と写真 | コピー | | | 大ファイル |
| 米国地図 (全体) | コピー | | | 大ファイル |
| 米国地図 (東海岸) | コピー | | | 大ファイル |
| 本田幸介履歴 | コピー | 戸籍謄本 | | 長沢の甥 |
| 本田幸介戸籍 | コピー | | | |
| レーガン大統領長沢関連国会演説新聞記事 (英文) | 現物 | | | |
| ローレンス・オリファント資料 (英文, 人物辞典より) | コピー | | | |
| ローレンス・オリファント年譜 | ワープロ原稿 | | | |
| 鷺津尺魔「吾輩の米国生活」(新聞『日米』より) | コピー | 鷺津尺魔 | 1924 | 『日米』 |
| 渡辺正清「ワインの道」(1~4)「長沢鼎」(1~11) | コピー | | 1993 | 読売新聞 |
| 新井奥彦・長沢鼎略年譜 | | | | 大ファイル |